

第 5 回都市づくり調査特別委員会での主な意見

□日時 平成 28 年 4 月 22 日（金）13：00～15：00

□場所 第一本庁舎 42 階 特別会議室 A

■意見交換

<全般>

- ・ 2040 年には、現在の小学生・中学生・高校生が東京の都市づくりを担うこととなる。このことを明確に打ち出す書きぶりにすべき。

<はじめに>

- ・ 「単に未来を予測するものではなく」（p.1,23 行目）、「したがって、漫然としたままで」（p.1,25 行目）は、よりポジティブな文章にすべき。

<第 2 章 2040 年代に果たすべき東京の役割>

- ・ 「アジア・環太平洋地域の中心に位置し」（p.5,15 行目）とあるが、地理的状況について正確に記載すべき。
- ・ 「多様な集積と安定したマーケット」（p.5,19 行目）について、マーケットは大規模なだけではなく、消費者のレベルが高く、ビジネスをする側も磨かれることを表現すべき。
- ・ 「巨大地震や異常気象」（p.6,17 行目）は世界的にみると、気候変動への適応が中心的な話題であるため、それぞれについて独立して記載すべき。

<第 3 章 2040 年代に目指すべき東京の都市像>

- ・ 地域区分の名称については、今後のパブリックコメント等の意見も踏まえ、イメージがわかりやすい言葉を考えていくなど、引き続き検討を行っていく必要がある。
- ・ 「拠点」（p.7,23 行目など）という文言は、中心となってある地域をけん引するイメージである。しかし、東京には拠点以外にも、商店街や住宅街、歴史的な景観といった多種多様の個性がある。このような個性を伸ばし生かしていくことが、東京全体の魅力の基礎となることを表現してはどうか。
- ・ 「都市づくりの目標」（第 3 章 2（1）～（7））の内容と、「取組の方向性」（第 4 章 2（1）～（7））以降の内容の整合を図るべき。
- ・ 「災害リスクと環境問題の克服」にある「克服」（p.8,15 行目）は、問題が発生した後に対応する

イメージ。事前に対策を取り、迎え撃つイメージの文言に修正すべき。

- ・ 「文化・芸術・スポーツなど都市の新たな魅力を創出」(p.8,30 行目)のタイトルは、意味が分かりづらい。「文化・芸術・スポーツによる都市の新たな魅力を創出」等に修正し、意味を明確にすべき。

<第4章 都市像の実現に向けて>

- ・ 「参画・協働による「民」の実力と知見の活用」にある「民」(p.14,21 行目など)という文言の定義が明確でないため、都民や NPO 等を含めた広い意味を持つことを示すことができるよう、例示をすべき。
- ・ 「経済活力の向上のための拠点づくり」(p.15,3 行目)には、ハード面の内容のみ記載されているが、ソフト面(税制や規制などの様々な施策)についても記載すべき。
- ・ 「国際ビジネス交流ゾーンにおける基盤の質的充実」にある「これまでの業務基盤にとどまらない」(p.15,23 行目)は、意味が分かりづらい。世界経済をリードしていくような機能が集積する場所においても、芸術等が織り込まれているというイメージが分かるよう、修正すべき。
- ・ 「防災・減災や事前復興の視点を組み込んだ都市づくり」に「多様な災害による被害を想定し」(p.18,19 行目)とあるが、多様な被害パターンを想定することも重要。また、被災状況に応じて新たに必要となる復興対策を検討することも重要であるため、追記すべき。
- ・ 「防災・減災や事前復興の視点を組み込んだ都市づくり」にある木造住宅密集地域に関する内容(p.18,27 行目から)は冗長であるため、表現を改めるべき。
- ・ 「長期的な災害対策の取組」の中で「東京を発災前よりもさらに強靱にするため」(p.19,9 行目)とあるが、強靱化はもとより、発災後に実現する都市づくりは、発災前よりも先取りしたものにすることを意識した文章にすべき。
- ・ 気候変動への適応は国際的にも重要な課題であるため、適切な表現を今後検討する。
- ・ 熊本で発生した震災を受け、「災害リスクと環境問題の克服」(p.18,8 行目)の内容を、今後必要に応じて追記すべき。
- ・ 「ライフスタイルに応じて選択できる場の提供」(p.19,31 行目)および「生活を支える拠点への集約化と多様なコミュニティの創出」(p.20,22 行目)の中で、「多様」という文言が頻出しているため、具体的な例示をするなど表現を工夫すべき。
- ・ 「生活を支える拠点への集約化と多様なコミュニティの創出」の中で、「駅と一体となったまちづくり」(p.20,24 行目)が提示されているが、「walkability」(歩いて暮らすことができる)の観点を盛り込んでどうか。また同項目内に、安全で持続可能な住環境をどのように実現していくかが盛り込まれていないため、追記すべき。

- ・ 「集約型地域構造への再編」(p.21,19 行目)は、地方都市のイメージであるため、東京の特性を生かした集約型地域構造の表現を、検討すべき。
- ・ 老朽化したマンションの扱いも問題となっているため、「空き家・空き地・公的不動産等を活用したコミュニティづくり」(p.21,7 行目)に入れ込むべき。
- ・ 「四季折々の美しい風景の演出」(p.21,30 行目)は下水道エネルギーの利用という内容とかけ離れたタイトルであるため、再考すべき。
- ・ また同項目には下水道に関する内容が含まれているが、タイトルとの違和感があるため、水辺を清潔に保つため下水道が必要といったストーリーがあれば表現すべき。
- ・ 『四季折々の美しい風景の演出』(p.21,30 行目)に、東京には園芸文化や文化財庭園等、貴重な緑の資源があることの表現を、今後検討する。

■今後の進め方

<中間のまとめのとりまとめについて>

- ・ 中間のまとめは、今回提示している文章のみの形式で、本日の意見及び4月中に事務局に寄せられた委員の意見をもとに、今後ブラッシュアップをする予定。修正に関しては、岸井委員長が事務局と調整して決定するというで一任する。
- ・ 根拠となるような図表等については、別途答申に向けて整理する予定。

<今後の予定>

- ・ 次回の都市計画審議会において、中間のまとめの概要を発表予定。
- ・ 委員には都市づくりのグランドデザインに期待することの意見をメモやプレゼンテーションの形で提示していただく予定。

以上